

展示「アジアの文字表」について

古代文字資料館

社会のなかに生活するならば、言葉はほとんど自然といてよいくらいに無意識のうちに習得するけれども、文字は一つ一つ努力して習い覚えなければならない。文字は一定の労力を傾けて習得し次の世代に受け渡す文化である。受け渡す文化といっても、文字自体に自立的に何らかの特徴が備わっているわけではなく、それを習得し運用する人間のなかに心理的な実在として文字の観念が様々な運用法とともに蓄えられているにすぎない。もっとも、その目に見えない心理的な実在としての文字の観念が如何なるものであるかということについては、外部に形となって現れた文字資料や文字に係わる人の行為から推測するしかないこともたしかである。このように文字は、意識的に習得され、心理的な実在として存在する。そしてその習得には比較的長い時間を要するのであるが、習得の初期の段階では文字を支える根幹となる部分が伝授されることになる。この根幹となる部分は、文字の運用に先立って是非とも習得しておかなければならない文字の原理ともいべきものである。文字を混乱なく運用するために、初期の段階においてこのような文字の原理を習い覚えざるをえないといったほうが良いかもしれない。文字の原理などという大げさなようであるが、文字に係わる初歩的な知識という程度のものである。思い起こすに、小学校では先ず平仮名と片仮名の書き方と読み方を学び、その応用として平仮名や片仮名を綴り合せた単語の意味と読み方を学んだ。仮名よりもやや遅れて学んだのは漢字であったろうか。漢字の場合は書き方と読み方と意味を学んだ。この「学び」のなかに文字を支える根幹となる部分があるとみている。ふつう、文字は大きく二つに分類される。仮名やローマ字などの表音文字と、漢字などの表意文字である。そこで、先に述べた文字習得の経緯によって表音文字と表意文字を定義するならば、「形」と「音」をセットで学ぶ文字が表音文字で、「形」と「音」と「意味」をセットで学ぶ文字が表意文字ということになる。なお表語文字という用語は使わないことにしている。このようにして字形と音と意味の関係を原理として学び、次いでこの原理を様々に運用することを学ぶのである。

以上が、初期の学びについて考えていることであり、初期の学びにかかわる資料として児童教育用の絵入り大型文字表や文字練習帳を収集展示しようと考えた次第の一部である。将来には、アジアだけでなく欧米やアフリカのものも収集展示したいと願っている。アジアといっても、まだまだ不足しているが、とりあえず、経過報告という程度の展示としてお許し願いたい。次ページにパンフレットを掲げた。ご参照くだされば幸いです。

なお、文字表などは現地でないと調達が難しく、旅行や調査などで海外に行く学生さんや教員に調達をお願いしている。今回の展示資料はそうして集められたものである。そこで、KOTONOHA 読者各位にも、資料拡充のためご協力願えれば幸いです。資料入手の際にはぜひ古代文字資料館にご一報ください。(吉池記)

アジアの文字表

～児童教育用の絵入り大型文字表と文字練習帳～

期間 : 平成23年10月4日から24年1月24日まで。 閉展は1/3 と 1/10
開室時間: 毎週火曜日。第4限(2:30~4:00)のみ。
展示室 : 愛知県立大学 E棟5階。510室。 エレベーター降りて右斜め前。
参観 : どなたも歓迎。



- 日本 ひらがな カタカナ
- 韓国 ハングル
- 中国 漢字 ピンイン
- 中国内蒙古 モンゴル文字
- ウズベキスタン ラテン文字
- タイ タイ文字
- ラオス ラオ文字
- インド デーバナーガリー文字
オリヤー文字 グルムキー文字
ウルドゥー文字 など

主催：古代文字資料館(E511)